

## 市長と住民のこんだん会「臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう」(報告)

- 1 日時 令和4年8月25日(木) 午後6時～7時30分
- 2 場所 本郷地区地域づくりセンター・本郷公民館 2階 大会議室
- 3 テーマ 「本郷地区の活力ある地域づくり」
- 4 内容 (1) 本郷地区の概要  
(2) 松本第一高等学校総合学術系統フィールドワーク講座のプレゼンテーション  
『高校生が作る地域ガイドマップ「AsaMap」を制作して』  
(3) 経済の活力について  
(4) 住民福祉の活力について  
(5) 松本市・本郷村合併50周年記念事業について
- 5 参加者 40人(内傍聴者7人)

### 1 臥雲市長あいさつ

市長と住民の懇談会は、市長就任2年を経過した今年の5月から始めた。コロナの関係で、地域の皆さんと膝を付き合わせてお話する機会は持ちにくかった2年間であった。

本郷は、再来年、松本市と合併して50年という節目を迎える。浅間温泉を中心に北は三才山から南は惣社まで非常に大きな地区であり、松本市が抱えている観光の課題や健康政策の課題にも取り組んでいただいている地区でもある。

今日は、高校生から先輩の方まで幅広い世代の皆さんと、本郷の未来について様々なご意見をいただき、また、私が日頃考えていることもお伝えできればと思っている。



### 2 発表(代表)者自己紹介

松本第一高校 高頭嘉一 リーダー

浅間温泉観光協会 二木伸次 会長

本郷地区町会連合会 小池文雄 副会長(社会福祉協議会本郷支会長)

本郷地区町会連合会 若林哲男 会長

合併50周年記念誌編集委員会 柳原忠志 委員長

### 3 本郷地区の概要

松本市の東北部、松本駅から約5キロの筑摩山地の山麓に位置する。面積は38.28平方キロ、標高は平均して約650メートル、地区の83%が山地で、武石峠、三才山峠を源に女鳥羽川が流れ、松本市街地に豊かな水を運ぶ。

本郷村制施行は明治22年4月、昭和49年5月に松本市と合併し、令和6年、合併50周年の節目

人口は1万4,302人、35地区の5番目、去年の社会動態は、転入が転出を100人上回った。後期高齢者人口は2,376人、16.6%は市平均とあまり差がない。ただし一人暮らし高齢者数が、738人で、2番目に多い鎌田地区よりも、110人多く、防災対策は急務。町会数は26で、市内で第4位

小学校は本郷、旭町、清水小と、一地区に3通学区あり、公立幼稚園3園中2園が地区内に、福祉ひろばも市内で唯一2施設。スポーツ施設、文化施設が集積し、恵まれた地区

### 4 松本第一高等学校総合学術系統フィールドワーク講座によるプレゼンテーション

『高校生が作る地域ガイドマップ「AsaMap」を制作して』

松本第一高等学校学術探究コース総合学術系統の2、3年生は、地元である浅間温泉の魅力を、高校生の視点で発見、発信するために地域ガイドマップである「AsaMap」を制作。「AsaMap」制作をとおして感じたことや発見したことなどを発表

#### (1) 飲食店班

多くの店が、昔ながらの浅間を守りたいと言う。コロナ禍で、大変な思いをしている中、お客様の安心安全を守ること、浅間を守るためにお店を盛り上げようとしている熱い思いが伝わってきた。

浅間を訪れる人を増やすために、若い世代の私たちにできることは何かと考え、SNSを通して呼びかけをすることで貢献できるのではないかと考えた。

#### (2) インスタ映えスポット班

浅間温泉には、まだ知られざる観光スポットがたくさんあると考え、その魅力を伝えたいとの思いから企画を考えた。地域の人と触れ合い、やりがいを感じることができた。浅間温泉を知っているつもりだったが、まだ知らない魅力がたくさんあった。

#### (3) 旅行ホテル班

浅間温泉は源泉かけ流しの湯になっている。温泉の特徴は、精神状態を改善できる美人の湯と、お肌がきれいになる美肌の湯で、旅館によって引いている源泉が違い、いろいろな湯を楽しむことができる。どの旅館もWi-Fi完備で、誰でも楽しめるバリアフリー設計になっており、居心地の良い空間になっている。

これからやりたい新しいことは、高校生目線の文章を書くこと。周辺のマニマップを追加し、温泉などの場所をわかりやすくし、公式QRの追加をして、その旅館と繋げられるようにしていく。

#### (4) ハイキング班

見慣れた土地でも行ったことがない場所があるため、実際に足を運んでみた。観光客目線で地元を歩いてみることによって、普段発見できない魅力が発見できると感じ、それを発信することが大事だと感じた。

#### (5) 歴史文化班

自分たちの足で動き、自分たちの目で、耳で実践し調査した。次回の改訂では、浅間温泉の歴史を年表にまとめる。私たちが実際に行った感想を記載する。多言語で表示さ

れるコードを載せるなど、より多くの方の興味を持たせたい。

千年以上の歴史を持つ臨濟宗の神宮寺、四つの薬師堂の紹介。

高校生から見た浅間温泉の可能性としては、神宮寺の美しい庭園など魅力的な場所のSNSを使った発信、ライトアップしたり、高校生が積極的に神社の清掃に取り組むことで整備が行き渡り、観光客も浅間温泉に訪れやすく、浅間温泉の歴史に興味を持ってくれるのではないかと考える。

#### (6) まとめ

探究プロジェクトを通して学んだこと、気づいたこと、地元のことでも知らないことがたくさんあった。それを見つけ高校生の視点で発信することによって、魅力的なまちづくりに繋がると感じた。また、地元の新たな魅力に気づき、より誇りを持てるようになった。主体的にテーマや課題を決め、仲間と協働しながら探究していく楽しさや充実感を実感できた。そして生徒間、地域の方、店の方々とのコミュニケーションを通じ、多様で大局的な視野からの立場について幅広く深く学ぶことができた。

第3段では、東京銀座の長野県アンテナショップなど、より広い地域においてもらいより多くの人に浅間温泉の魅力を発信していきたいと考えている。



#### 【質疑応答、要望】

誤字指摘、第3弾は、誤字脱字がないようお願いしたい。

現在、浅間温泉の郵便局、銀行、交番などに「AsaMap」を置いているが、長野県のアンテナショップの他、市内散策するために情報を求めている松本城にも置いてもらいたい。

#### 【市長コメント】

時間をかけて、いろいろ考えて体裁も、デザインも、作っていただいた。

字とか、表現のやり方の細かいところで誤りがあると、せっかくの価値が下がってしまう。私達が仕事をするときにも、起こりがち。そこに時間をかけて大切に本を作る大変さもあるということは、学んでいただきたい。

置く場所は、まずは浅間温泉を訪れた人たちに見てもらうことからスタートをしていると思うが、今度は、まだ浅間温泉を訪れてない人たちにどう見もらえるか、どんな場所に置いたらいいか。例えば、松本城や松本駅の観光案内所は競争率も高いと思うが、皆さんが足を運んで「お願いします。」ということで、ぜひ実現してほしいと思う。

高校生目線で作る。大人に、観光や旅行で来た人たちに見てもらうことも大事だが、今はこれを作ると同時に、SNSやインターネットを通じて情報を届けられるので、ぜひ地元の高校生が、浅間温泉のよさを日本全国の高校生に届けてほしい。さらに、インターネ

ットは国境がなく、世界の同世代の人たちに、皆さんが皆さんの目線で見えた浅間温泉の魅力を届けてほしい。それが実は、高校生目線で見るということを、魅力を、しっかり伝えられる対象じゃないかと思う。同じ世代のできるだけ松本から離れた人たちに、遠い人たちにもぜひ届けてほしいと思った。

【市長、席の移動 正面へ】

## 5 浅間温泉の経済の活力について

発言者 浅間温泉観光協会 二木伸次 協会長

### (1) 導入

第一高校の皆さんへのお礼。町会の皆さんへのお礼。浅間温泉は、周りの学生、子どもたち、町会の皆さんに支えられて観光に取り組んでいるエリアだと思っている。第一高校、信大付属小学校、本郷小学校の子どもたちも頑張っている。いろいろなエリアの子どもたちが浅間の魅力を発見してくれ、私たちが気づかされるのがたくさんあるので、幸せだと思いながら仕事をしている。

### (2) 浅間温泉の観光に係る現状

感染症の関係からだいぶ落ち込んでいる。今年に入って、少し盛り返せると思ったが、第7波の影響で、特に8月はキャンセルが多発、そして9月以降の予約もほぼ入ってこない状況になっている。1月から7月の入湯税、入り込みの状況でいうと、コロナ前の7割近くまでは戻しつつあったが、この先わからない状態になっている。

修学旅行も皆無の状態が続いており、厳しい状態がますます厳しくなっている。

昭和の全盛期の頃には70軒あった旅館が、現在21軒になり、21軒の旅館で経営者が変わらず地場の方が経営している宿は、現在10軒しか残っていない。他は更地になったところ、大手の資本が入ってきた宿もたくさんある。ただし、大手の資本の宣伝力に救われている部分が多々あり、何とか一緒に頑張っていきたいと思っている。

### (3) 浅間温泉の観光戦略

松本市の経済を元気にするために浅間も元気にならないといけなく、何とか客数を増やしたいと考え、いろいろな取組みをしている。

その一つが浅間温泉の宿泊客を一泊2食の形態から一泊朝食付きの形態に変えて、なるべく温泉街の中や松本市内まで出て行って食事をとってもらう取組みを進めていきたい。「温泉ホテルおもと」の取組みの紹介

松本市が一つの大きな家だと思い、風呂に入るには浅間に、ご飯を食べるためや買い物は市内に、自然を感じたければ美ヶ原高原や上高地に行く。そういった取組みができないかと思って試行錯誤しているので、協力をお願いしたい。松本市からのサポートとして、昨年度の冬割りのような取組みはありがたい。

浅間では現状、そば祭り、松明祭、ツール・ド・美ヶ原など外からお客さんを呼ぶイベントを開催している。特に観光協会では、ツール・ド・美ヶ原自転車レースがメインになっており、今後、林道美ヶ原線の改修計画や、5年後に開催の国体では数万人が浅間を訪れることになるため、浅間周辺の道路整備の問題、体育施設の問題、駐車場の問題など課題が山積しているため、ぜひ市長と話をしながら一つひとつ具体化できるような取組みをしていきたいと思うので、今後ともよろしく願いしたい。

【市長コメント】

2年半経ってもコロナの終わりは明確には見えていないが、一方で、海外の状況を見る限りは、このコロナを日常のものとして受け入れ、観光も含めた経済や社会の活

動を止めることがないという欧米各国の動きが、一歩先を行っていると思うし、日本においてもようやく、そういうことに舵が切れつつあると思う。ただし、陽性者が増えてしまうと、その動きが、また止まってしまうという、その悪循環は簡単には突破できないところも感じている。

そのうえで、改めて浅間温泉は、かつての城下町の奥座敷として大きく栄えていた時代からコロナの前の段階においても、既に非常に厳しい状況に陥っていたと思う。そこから次の新しい道をどう探り当て、そこに向かって進んでいくかということや、トンネルを抜ける道が見えなかった状態が続いていたと思う。しかし、コロナのこの大きな衝撃が、少し前に進むためのエネルギーに繋がってきているところもあると感じている。

典型的な日本の旅館の宿泊のあり方を一泊朝食ということに変えていく。温泉街に泊まって、食事や夜の街歩きは、中心街に出て、松本市内の中でいろんな役割分担をしながら宿泊や飲食の皆さんが新しい売上収益の道を確認しつつあるというところもあると思う。そのときに松本市がやるべきこと、中心街に出て行けるだけの交通機関、足を提供できるかということや、去年の松本城のイルミネーションなど新たな冬、あるいは夜のイベントなどを皆さんの知恵も借りながら、松本として開催していく、そうしたことを重ねていけば、浅間の未来あるいは松本の観光の未来は、いずれコロナ前より大きな可能性を開花できると思って、取り組みを続けていきたい。

2028年に国体があり、ここはテニス会場になるため、駐車場の問題等が既にある。松本の中で空港周辺の南のスカイパークというスポーツの拠点と、北は浅間やかりがねをスポーツの拠点となるように、国体を契機として、単に国体のための対策ではなく、2028年の国体というのをうまく活用をして、県の資金をしっかりと引き出して、取り組んでいきたいと思う。

美ヶ原の可能性は、西側の上高地に近い魅力を潜在的には持っていると思っており、美ヶ原の王ヶ頭台上に行くまで、あまりにも今の林道ではアクセスがひどい状況であるため、5年の期間で、必要な道路整備に取り組んでいきたいと思っている。

二木会長の話聞いて、第一高校の皆さんの感想をお聞かせ願えればと思う。

#### 【高校生感想】

美ヶ原まで行く林道やビーナスラインから降りてくるアザレアラインの道を整備することで松本市の観光客も増えるし、浅間温泉の宿泊客も増えるのではないかと思った。

#### 【柳原町会長意見】

環境庁ができた最初の頃に、県あるいは市で、台上に自動車道を通さないという約束があったと聞いているが、現在、美ヶ原線が袋小路になっている。台上のビーナスラインと美ヶ原林道は、台上を避けて、環境に配慮した道路は十分作れるのではないかと、昔の環境一辺倒の考え方から、観光資源を生かす視点でいけば、ビーナスラインと繋げることは、下に降りてくる浅間温泉の活性化には非常に大事なことだと思っている。

過去の約束にとらわれず、現在の状況を勘案して、台上、ビーナスラインとの繋がりを含めた美ヶ原、浅間温泉の活性化をお願いしたい。

#### 【市長コメント】

大きなポイントとして、環境省が国立公園や国定公園のあり方を保全保護一辺倒ではなく、活用とのバランスを取ってやっていくということは非常に大きな方針転換としてある。上高地を中心とした中部山岳国立公園も、今まで駄目だと言っていたものが、この1、2年、可能になってきているものもある。大きな意味で環境の保護保全を損なわずに、国立公園や国定公園の魅力をより大勢の方に堪能、体験していただけるかということ、松本市としても考えていくべきポイントだと思っている。

台上に車の通行を実現する道路をつくることは難しいと思うなかで、できることは、少なくとも上へ行くまでのアクセス、さらにその台上で、年配の方や足が不自由な方の移動手段であれば、環境を重視することとの調和点を見いだして実現できるか、また、その移動手段そのものが大勢の方にとって一つの楽しみになるようなことを考えていきたいと申しあげてきた。これからもしっかり検討してもらいたいと思っている。

## 6 本郷地区の住民福祉の活力について

発言者 本郷地区福祉検討会 小池文雄 会長

### (1) 地域バスの自主運営

地区の最も北東、三才山の一ノ瀬集落から松本駅までは13キロ、車で30から40分。その一番奥の三才山から市内へ唯一の交通手段であったアルピコ交通三才山線が平成28年の10月末で廃止された。三才山、稲倉、洞の3町会は、危機感を持ち、地域主導型の地域バスを市のアドバイスによって「ほしみ線バス協議会」を設立させて、平成28年11月1日から三才山線に変わるほしみ線の運行を実現させ、今年で7年目。

ほしみ線は、山辺線や中山線と違い、すべて住民だけで運営している。ただし、歳月と共に役員が高齢化し、同時に運行を委託している南安交通の専用車両も老朽化し更新が必要なため、市の公共交通の全体の枠の中で、市営バスに転換ができないかと考えている。同じ地区で後発の「みんなのバス」は、原、浅間、大村、惣社経由で、松本駅前へ行っており、このバスについても、住民の交通手段の確保のためには、市の総合的な公共交通の中で、検討していただきたいことは、切なる願いである。

### (2) 地域福祉の状況

浅間温泉も、この50年間で変貌してきた。文化スポーツの面では大変大きな飛躍があり、美鈴湖のスケートリンクは、業界では記録作りのリンクという異名を持った誇らしい施設であったが、天然リンクの使命を終えて、自転車競技場に生まれ変わった。また、かりがねの自転車競技場が美鈴湖に行ったおかげで、そこは、サッカーのメッカ松本山雅の本拠地に生まれ変わり、小澤先生が素晴らしいフェスティバルを持ってきてくださり、水汲のキッセイ文化ホールは、世界に誇る、地方都市で世界的な音楽祭ができるのは松本だけということで、本郷地区はスポーツ文化の拠点として恵まれた地区である。

半面、本郷地区の高齢化率は29%、市の平均より若干高い。出生率は35地区のうちの7番目ということで比較的多いが、唯一一人暮らし高齢者が松本で一番多い、更に要介護登録している人の割合も松本市で高い方で、また生活保護も市の平均よりも高い。過日も検討会で、一体この数字は、何を意味しているのか協議した。今後とも行政と共に考えていかなければと思う。

本郷地区は、平成7年に第1号の本郷福祉ひろばができ、13年後の平成20年には2館目が横田にできた。2館ともコロナに負けずに、日夜新しい挑戦をしており、時代のニーズに即したスマホ教室、これは高齢者の皆さんに両館ともに進めており、災害時にスマホが役に立つように日頃から勉強をしている。

また、社会福祉協議会からの支援で、町会サロン、地区サロンなど13カ所を開設して、高齢者、障がい者の皆さんのよりどころとなっている。

毎月、福祉の課題や解決策を話し合う福祉検討会を開催し、福祉の充実を図ろうと努め、5年計画の初年度になる第3期本郷地区地域福祉計画の策定にも取りかかっている。50周年を機に、一層力強く皆さまと共に歩んでいきたい。



## 【市長コメント】

過疎地域の公共交通の問題は、本郷だけではなく、西は奈川や安曇、東は山辺や中山の地域にとっては、今までアルピコが撤退をした後に市が関与して地域バスという方式で、何とか地域の皆さんの足をなくさないように、地域の皆さんの努力で、ここまでやっていただいた。一方で、限界、課題ということで、先ほどの車両の老朽化や担い手の高齢化という話は、非常に重い課題を抱えていることは、改めて認識をしている。

今回、過疎地域以外の、いわばアルピコもある程度利益が出ていた路線バスすらも、この先、持続可能性が危ういという認識のもとに、立て直しに取り組もうとしている。

ただし、この地域バスのあり方を現状のまま維持することすら、なかなか難しくなってくるというご指摘は、私達がしっかりともう一度向き合わなければいけない宿題だと考える。今までの地域バスとしての取組みが持続可能なのか、改めて持ち帰って検討させていただきたいと思う。

そして、この役員の高齢化、高齢化は、この地域の問題にとどまらなく、地域づくり、まちづくりも市内のほとんどの地区で抱えて、直面している課題である。いわゆる現役世代の人たちが、どう関わって、引き受けて、引き継いでいけるかといった方策を、それぞれの地域の事情に即して作っていくかということは、これは7回目の懇談会だが、どの地域でもご指摘をいただいている。必ずこの問題は、放置できない問題であり、皆さんと考えていきたい。

スマホ教室を積極的にやっていただいているという話もあったし、高齢者のよりどころとしての町会サロンという話をいただいた。そうしたことに若い世代が、より関わってもらえるか、そうしたことへの行政、市役所の関与は、センターレベル、あるいは本庁レベルでも考えていきたいと思っている。

## 7 本郷地区の住民福祉の活力について

発言者 合併50周年記念誌編集委員会 柳原忠志 委員長

### (1) 合併50周年の記念事業推進に向けた状況報告、協力要請

本郷村は1974年、昭和49年の5月1日に松本市と合併した。松本市と合併してからこの50年間、どういうふうにかこの地域が変わったか、あるいはどのような状況で変遷があったかを記録に残したいという発想で記念誌を編集している。

あわせて2024年には合併の記念イベントをする話が並行して進められている。

50周年記念誌は、なるべくビジュアル的に、写真を入れ、単なる出来事ではなく、エピソードを盛り込んで作りたいと思っている。

残念ながら資料がなかなか集まらず、特にソフト的なものは、写真がない。例えば横田が、1町会から7町会までできたというのは、写真に残らなく資料集めに苦労している。市民タイムスなどのメディアに協力をいただいて、資料集めをしようと思ったが、著作権の問題もあって難しいところがある。

加えて、50年前にどういう経緯で本郷村が松本市と合併をしたか、あるいはせざるを得なかったか、そこには村長選というイベントがあった。過去にどういう出来事があったか、もう少し今の我々は、掘り起こしてもいいのではないかということで、当時を知る方々に集まっていただき、座談会を設けて、それをこの記念誌の中に入れて、振り返ってみたいと考えている。

市長には、本郷村と松本市が市長の幼いときに合併したので、その頃のことも考えて巻頭言をいただければありがたいと考えている。

#### 【市長コメント】

温故知新、「古きを訪ね新しきを知る」という、そういう50周年の記念誌になればいいと思った。

50年前、必ずしも松本市と合併することを、そのときの全ての皆さんが歓迎したわけではないのかもしれない、合併せざるを得なかったという言葉もあったが、そうしたある意味、リアルな歴史をもう一度、今そうした経緯を知らない人にも伝えることも大事だと思う。しかし、そうしたことを乗り越えて合併し、松本市となり、様々な紆余曲折があったことを、そのとき、そのときのことをできるだけ正確、かつビビッドに記録として残すことは、この先の本郷地区をどういう方向で、みんなで向かって行ったらいいのかを、考え指し示す機会にもなるかと思う。

「AsaMap」を通じて浅間温泉のいろいろな情報作成に携わっている皆さんも、前身が、本郷高校という校名で始まっている学校の在校生の皆さんにとっても、記念誌づくりに、何らかの形で関わっていただくと、力強い援軍になると思う。また、高校生が参加するならば、現役世代や若い世代の人たちも参加の輪に関わり、広がって行ければ、それは先ほど申しあげた町会や、まちづくり全体の話に、50周年記念誌作りが導火線になるような、そうしたものにしていければなどと思うので、清澤センター長には様々な形でそこに関わってもらいたいと思った。

#### 8 フリートーク

二つのテーマ、本郷地区の経済、住民福祉の活力について、市長へのアピール等

#### 【伊藤 勉横田第2町会長】

健康づくり推進員の存続について、市長の本音を聞かせていただきたい。

#### 【市長コメント】

健康づくり政策の意味もあるが、町会、地域の役職が重なりすぎて、それが役員の担い手不足、あるいは若い世代、現役世代が、その必要性が薄いと感ずるため、少し距離をとることに繋がっている。この町会問題、地域問題の二つの側面が、健康づくり推進員にはあると思っている。昨年、そういう地域問題の観点から、町会連合会から健康づくり推進員の見直しについて要望いただいた。その中で、今回示した方針は、35地区の代表が全員集まってやってきた松本市全体の会合が、ほとんど形骸化していて必要性はないということで廃止にした。35地区で、それぞれやってきた活動のなかで、健康づくり推進員を置かなければ続けていけないところもあるが、既に福祉ひろば、その他の活動で代替ができていて、健康づくり推進員を、各単位町会で選任しなくてもいいと判断をしたところは、止めていただいても結構だという方針にした。

先月報告を受けた段階では、35地区のうちの3分の1ぐらいの地区では、引き続き健康づくり推進員は置く、3分の2ぐらいの地区は、必要がないという判断との報告を受けたので、それぞれの地区の積み重ねや取組みの中で、判断をしていただきたいと思っている。

#### 【伊藤町会長】

今、市長の話聞いてかなり安堵はしている。存続のため市としてやってほしいこともあると思う。

#### 【柳澤理晴横田第5町会長】

本郷地区の防犯協会の会長をやっている。電話でお金詐欺という名称に変えたオレオレ詐欺が、松本署管轄では非常に件数も額も増えている。実は私の近所の高齢者の家



にもあり、未遂に終わった。電話を受けて、その高齢者は、一晩怖くて眠れなくなるくらいの恐怖感を覚えたよう。

目に見えなくとも、そういった方が非常に多いと思う。松本防犯協会の会長もやっている市長から、これからの対策や、何かコメントがあればお聞かせいただきたい。

#### 【市長コメント】

基本的には自宅の固定電話にかかってくる。警察でも取り入れている対策は、留守番電話で把握したものに対して録音声でシャットアウトすること。これを取り付けることが一番の対策だということ。費用は一定程度かかるため、これを1・2ヶ月ほど前だが、松本警察署長からも長野県の中で、松本と長野の被害件数が多いため、松本市と一緒に留守番電話対策をしたいとの提案を受けた。具体的なことは、早急に詰めるという話をさせていただいたが、基本的な啓発だけでは、ままならない部分を県と市と予算を出し合いながらやる必要があるのではないかと考えている。

#### 【柳澤町会長】

町会サロンで防犯講座をやり、松本警察署の専門の女性巡査が、非常にコミカルな劇をやった。そういったことを積み重ねていくということかと思う。

### 9 高校生から市長へ聞きたいこと

Q(1) 好きな食べ物は何でしょうか。

A(1) かつ丼です。

Q(2) どうしたら市長になられますか。

A(2) 若い人たちが松本市長になりたい。こう思えるような仕事を自分が市長であるうちにしたいと、まずは思う。松本市長とは考えていなかったが、政治の仕事をしたと思っていた。大勢の人たちが抱える問題を、最終的に皆の意見を聞きながら、決める仕事、私はそれが政治の仕事だと思っており、そういう仕事をしたいと思っていた。

そのためには、様々な問題について興味を持ち、勉強して情報を取って、自分なりに、この問題については、こうすべきじゃないかとか、自分がもし総理大臣だったらこうするよと考えていた。ですので、今皆さんがやっている「AsaMap」もそうだが、いろんなことを、小さなことから、あるいはウクライナ軍事侵攻のような大きなことまで関心を持って、そして自分のそれぞれに対する答えを、その都度その都度、考えて出してほしい。それを友人同士、「お前は思う」って、いうことをやりあってほしい。松本市長だけじゃなく、もしかしたら総理大臣もできるかもしれない。若い人たちが、いろんな複雑な問題をみんなで考えて話し合って決めて、そういうことに責任を持って自分たちが関わろう。「それはやりがいがあるぞ、面白いぞ」と思ってもらえたらと思うし、ぜひ松本市長、30年後と言わず、20年後はもう多分、被選挙権があると思うので、頑張ってください。

Q(3) どうしたら市長みたいに威厳を保てますか。

A(3) 下を向いていることが多く、威厳は保てていないと思う。ただし、背筋は伸ばして、姿勢はよくしようと思っている。また、いろいろ批判をされたときに、謙虚ではなければいけないが、自分が思っていることは、しっかり伝えようと思っている。

### 10 市長から全体をとおしての感想

7度目の懇談会であったが、それぞれの地区の課題は、先ほどの町会の役員の担い手不足のようにどこにも共通する問題もあれば、この本郷の場合で言えば、合併から50年近く経とうとする中での浅間温泉の観光の問題や、過疎地域の交通の問題など、本郷

においてこそ取り組んで、そのことを松本市全体に広げていけたら松本市全体にとっても大きなプラスとなると思うような課題があった。今日はその事を改めて感じさせていただいた。

皆さん先輩方の世代からバトンを受け継ぐ、引き継ぐ人たちを、私たち側のアプローチで、そのお手伝いをする。本郷地区においては、50周年の記念事業となるが、いい機会として、世代を超えて全ての世代で50年を振り返り、そしてまた次の50年を目指していくということを実現していただきたいと思う。

最後に、第一高校の皆さんへお礼。そして「AsaMap」も記念誌も、ぜひ面白がって関わってほしい。そして、最大の本郷地区のサポーターとしての大きな期待もあるので、高校生の目線で参加していただければと思う。

#### 11 本郷地区町会連合会若林哲男会長から総括及びお礼

